



▲山村学園短期大学の学生が作成した、児童虐待防止の横断幕を持つ巣立先生

最後に、皆で子育てを見守る地域にしていくなために、子育て世代、それを見守る地域の方などへ、メッセージをお願いします。

子育て中の保護者に対し、周りの家族や友人ができる対応についてのポイントは、周囲の方には、子どもを数時間でも預かったり、話を聞いてあげたり、美味しいものを差し入れするなど、疲労感や悩みを軽減するようなことをお願いしたいです。子育てが当たり前ではなく、大変なことを理解し、保護者の方を労うことが必要です。また、子育てに関してアドバイスをするのではなく、ただ単に聴く、気持ちを肯定することをお願いします。

昔のように子育ては母親が一人で行い、頑張るものではありません。また家族のなかだけで子育てを行うのではなく、様々な人の手助けや地域との連携が必要です。道端で子育てをしているお母さんに会ったら、「いつも頑張ってますね」と一声かけてあげるなどの些細なことが非常に重要です。

お母さん方も、もっと周囲の方々に助けをもらいましょう。子育てを誰かに手伝ってもらうことは「逃げ」ではなく、子育てでは母親が一人で行い、頑張るものではありません。また家族のなかだけで子育てを行うのではなく、様々な人の手助けや地域との連携が必要です。道端で子育てをしているお母さんに会ったら、「いつも頑張ってますね」と一声かけてあげるなどの些細なことが非常に重要です。

保護者が「カッ」となったときの対処法

巣立先生 おすすめの

子育てをしていると子どもが言うことを聞かないことはよくあり、子どもに親の言うことを聞かせたいという支配欲も生まれてしまいます。この支配欲は虐待の原因ともなりえますので、非常に注意しなければなりません。

①まずは子どもの安全を確保したうえで、物理的な距離をとりましょう。

②誰かに愚痴をこぼすのも、とても重要です。



聴く側の方は、アドバイスより聴くこと、話している方の気持ちを肯定することをお願いします。



子どもと関わる中で、いろいろな工夫をしてもうまくいかないことがあります。そのようなとき、周囲の力を借りることで解決につながる場合があります。そんなとき鳩山町では、町の相談窓口や保健センター、子育て世代包括支援センター等で相談を受けていますので、お気軽にご利用ください。

身近な相談窓口

- ・子育て世代包括支援センター『ぴっぴ』 ☎ 298-1136
- ・町保健センター ☎ 296-2530
- ・鳩山町つどいの広場『ぽっぽ』 ☎ 296-7733
- ・ひばり子育て支援センター ☎ 296-5694

ひばり子育て支援センターではメールによる相談(hoikuen@hibari.or.jp)も行っています。また令和4年1月からZoomによるオンライン相談も開始予定です。相談内容や個人情報他他人に漏れることはありませんので、安心してご相談ください。



「児童虐待かも」と思ったら、「189」にダイヤルを

児童相談所虐待対応ダイヤル「189」とは、虐待かもと思った時などに、すぐに児童相談所に通告・相談できる全国共通の電話番号です。通告・相談は、匿名で行うことができ、通告・相談をした人や、内容に関する秘密は守られます。「虐待かも」と思ったら、児童相談所または町保健センターへご連絡ください。

- ・児童相談所虐待対応ダイヤル（通話料無料） ☎ 189
- ・町保健センター ☎ 296-2530

11月は児童虐待防止推進月間です ~189 (いちはいく)「だれか」じゃなくて「あなた」から~ (令和3年度児童虐待防止推進月間標語)

国は毎年11月を児童虐待防止推進月間と定め、あらゆる世代・立場の方々に広く関心を持っていただき、児童虐待をなくすための意識を高めることを目的にさまざまな呼びかけを行っています。

児童虐待とは、保護者によって児童(18歳未満)を虐待することです。児童虐待には「身体的虐待」「性的虐待」「ネグレクト(育児放棄)」「心理的虐待」があります。

令和3年9月には、令和2年度の児童相談所の児童虐待対応件数が、20万5,029件(速報値)と初めて20万件を超え、過去最多であったことが発表されました。

コロナ禍の現在、外出機会や活動の制限等により、子どもも大人も心身にストレスを抱える方が多くなっていると考えられ、児童虐待も起こりやすい状況と懸念されています。

このような状況の中、子どもたちを取り巻く環境の変化について、また、子ども・親・家族・地域・行政がそれぞれの立場でできることについて、子どもの発達や親子支援の専門家、山村学園短期大学の巣立先生(すだてよしひろ)先生にお話を伺いました。

■問合せ 町保健センター ☎ 296-2530

Interview

児童虐待の件数増加に、新型コロナは大きく影響しているのでしょうか。

関連については、はっきり言えるわけではありませんが、第三者による見守りの機会が減ってしまったことは確かです。家族だけで過ごす時間が増えたことにより、関係性が悪くなってしまう場合もあると思います。周りからは気づかれにくいものや、隠れているものもあるかもしれません。

先生が保護者支援としてお話を聞いたり、アドバイス等をされるときに大切にしていることは。



巣立 佳宏(すだてよしひろ)氏

山村学園短期大学講師(社会福祉学修士号、心理学修士号を取得、認定心理士、保育士、幼稚園教諭I種の資格を持ち、子育て支援センター、教育支援センター、児童養護施設等多くの現場で、心理士、学校カウンセラー、巡回指導員を歴任)

子育てがうまくいかないと、「わたしはダメな親だ」と自分を責める親御さんはとても多いです。しかし、お子さんに育てづらいつ感じている特性があったとしても、それは親の育て方のせいで起こっていることでは決してありません。「迷惑をかけてはいけない」と自分だけで何とかしようとしてひとりだけで苦しまないでほしいなと強く思います。今の時代、ソーシャルネットワーク・キング・サービス(SNS)をうまく使った相談体制があると、相談することへのハードルが下がるかもしれません。自分自身、勇気を出して相談してくれた方に信頼してもらえ、支援者でありたいと思っています。